

令和 3 年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 浅川 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学)

教科に関する調査(国語、数学)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学)の結果

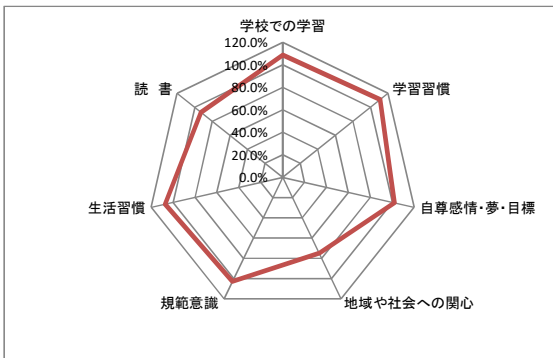
| 本年度の結果 | 国語 | | 数学 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 8.8 | 63 | 8.8 | 55 |
| 全国 | 9.0 | 65 | 9.1 | 57 |

(2) 本校の学力調査結果の分析

| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全領域等において全国平均を上回っているが、「問題別調査結果」を分析すると「漢字の読み」が全国平均を下回っており、基礎的な知識の習得において課題があることがわかった。 | 全国平均正答率との比較 上回っている |
|----|-------------|---|-----------------------|
| | よくできた問題 | 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題において、全国平均を10ポイント以上上回っていた。 | |
| | 努力が必要な問題 | 文脈に即して漢字を正しく読む問題(「伸ばして」「詳細」)が全国平均を下回っていた。 | |

| 数学 | 全体的な傾向や特徴など | 「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の全領域等において全国平均を上回っており、特に「図形」の領域での正答率が高かった。「問題別調査結果」を分析すると「整式の加法と減法」では、県平均を下回っており、自分の言葉で数学的に説明することに課題があることがわかった。 | 全国平均正答率との比較 上回っている |
|----|-------------|---|-----------------------|
| | よくできた問題 | 領域では、「図形」と「関数」での正答率が高く、選択式や短答式などの「知識・技能」は定着している。 | |
| | 努力が必要な問題 | 「整式の加法・減法」などの基本的な技能の向上と、問いに対し数学的に説明する記述式の問題に努力が必要である。 | |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 毎日、ほぼ同時刻に就寝し、起床すると答えた生徒が多いなど、基本的な生活習慣が身に付いていて規範意識が高い生徒が多い。 一日当たりのゲーム等の時間が全国平均に比べて短かく、家の人とルールを決めておくなど、時間の管理が適切にできていると考えられる。 新型コロナウイルス感染症の影響等が加わり、地域や社会への関心や関わりがより希薄になっている。 1日当たりの読書時間が全国平均を下回っている。 |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

生徒は概ね基本的な知識・技能を有しているが、国語科では漢字の書き取り、数学科では整式の加法・減法に若干の課題があり、今後は、基本的な漢字の練習や整式の加法・減法の練習問題等を機をとらえて短時間で行うようにする。また、身に付けた知識や技能を活用する場面や自分の考えに根拠を加えて論理的に説明する活動等を、これまでの取組を改善・継続しつつ全教科で授業に一層取り入れる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

日常生活の中で携帯電話やSNS等に係る問題が生じていることが学校で明らかになり、指導に至ることが頻発しているため、「規範教育」や「暴排教育」を継続して行うとともに、「中1スマホデビュー」対策として保護者に対する啓発を行っていく。また、家庭学習が十分に確保できていない生徒がおり、本校では、理科や英語科等を中心に学力向上や家庭学習の取組を行っているが、全校統一した「1日1ページ自学ノート」等の取組を行っている学校があり、今後、検討していきたい。